

目 次

はしがき

法思想家水脈年表

0 講 法思想の水脈をたどって 法思想史の意義と方法 森村 進 1

- I — 法思想史とは何か なぜ学ぶのか 1
- II — さまざまなアプローチ 3
- III — 本書の構成と概観 水脈をたどって 6

1 講 古代ギリシアの正義論 宇佐美誠 11

- I — 徳としての正義 11
- II — ソクラテス 12
- III — プラトン 15
- IV — アリストテレス 19

2 講 ローマ法の形成 田中 実 27

- I — はじめに 27
- II — キケロ 法廷弁論と理論書から見てとれる法と国家社会の思想 29
- III — ガイウス 入門書から見てとれる法の体系と法教育 32
- IV — パピニアヌス 専門書から見てとれる法と倫理 35
- V — ウルピアニヌ 註解書から見てとれる衡平 38

3 講 「法」と法の支配 クックからダイシーまで 戒能通弘 42

- I — 裁判官、法律家による法の支配の伝統 42
- II — クックと法の支配 43

Ⅲ― ホッブズのクック批判から、ヘイル／ブラックストーンへ 46

Ⅳ― ベンサムと法の支配 49

Ⅴ― ダイシーによる議会主権と法の支配の両立 51

★コラム 1 国際法学の誕生 【周 圓】 54

4 講 社会契約 誰がために国は在る 内藤 淳 58

Ⅰ― 社会契約説の特徴 社会をなぜ「契約」で説明するのか? 58

Ⅱ― ホッブズ 万人闘争からの脱却 59

Ⅲ― ロック 生命・自由・財産の保全 63

Ⅳ― ルソー 社会共同体の中での自由と平等の回復 66

Ⅴ― 共通点と相違点 69

Ⅵ― その影響と現代的意義 70

★コラム 2 『法の精神』と権力分立 【森村進】 74

★コラム 3 アダム・スミスの共感法学 【森村進】 78

5 講 ドイツ観念論の完成 自由から法と国家を構想する 高橋洋城 81

Ⅰ― はじめに ドイツ観念論の法思想とは? 81

Ⅱ― カント 自由が共存する体制は義務である 82

Ⅲ― フィヒテ ルソー直系の契約説か? 86

Ⅳ― ヘーゲル 自由の実現と市民社会・国家 89

6 講 中世ゲルマン法と歴史法学 「良き古き法」と民族精神 屋敷二郎 96

Ⅰ― 序 説 96

Ⅱ― 「ゲルマン法」の概念 97

Ⅲ― 中世ゲルマン法の実像 100

Ⅳ― 歴史法学 105

V—	まとめ	108
----	-----	-----

7 講 「概念法学」批判 プフタとイエーリング…………… 松尾 弘 110

I—	「概念法学」概念の誕生	110
II—	プフタの法概念と法理論体系	112
III—	イエーリングにおける法思想の展開	116
IV—	「概念法学」批判の意義	120

8 講 法社会学の形成 エールリッヒとウェーバー…………… 長谷川貴陽史 123

I—	はじめに	123
II—	エールリッヒ	123
III—	ウェーバー	128

9 講 国法学と立憲主義…………… 森元 拓 138

I—	イエリネクと美濃部達吉	138
II—	イエリネクの一般国家学	139
III—	家産国家論者との闘争	141
IV—	天皇機関説論争と美濃部の憲法学	147

10 講 法実証主義の極限と「例外状態」の合法性 ケルゼンとシュミット…………… 松本尚子 153

I—	時代状況	153
II—	ケルゼンの純粹法学	154
III—	シュミットの決断思考	158
IV—	ケルゼンとシュミットの民主制論	163
V—	おわりに	165

★コラム 4	リアリズム法学は社会学的法学とどこが違うのか	【森村進】 166
--------	------------------------	-----------

11講 法実証主義の再興 H.L.A.ハートとラズの現代分析法理学

濱 真一郎 170

- I — 法実証主義の再興を目指して 170
- II — 「承認のルール」と法的ルールの二つの見方 171
- III — 法と道德分離論 175
- IV — 司法的裁量論 179
- V — 法理論の二つの捉え方 182

12講 法実証主義への挑戦 フラーの「法の内面道德」とドゥオーキン

の「純一性としての法」…………… 高橋文彦 184

- I — ハート＝フラー論争 184
- II — ドゥオーキンの権利論 186
- III — ドゥオーキンの「純一性としての法」 190
- IV — おわりに 197

★コラム 5 批判法学 【関 良徳】 199

13講 正義論の展開 「善き生」をめぐる多様な信念との関係

…………… 大澤 津 203

- I — 政治理論の復権から「正義」の論争へ 203
- II — 前期ロールズの『正義論』 正義の二原理と原初状態 204
- III — コミュニタリアニズムの登場 「負荷なき自我」の批判と共通善の政治 207
- IV — 後期ロールズの理論 重なり合う合意と公共的理性 209
- V — ドゥオーキンの理論 資源の平等と尊厳のための政治 211
- VI — おわりに 215

14講 リバタリアニズムの法思想 ハイエク, ノージック 橋本祐子 217

- I — リバタリアニズムとは何か 217
- II — ハイエクの法理論 自生的秩序としての法 218
- III — ノージックの最小国家論 自己所有権の不可侵性 222
- IV — おわりに 227

15講 ポストモダン法学の思想 関 良徳 229

- I — ポストモダン法学とは何か 229
- II — デリダ 230
- III — ルーマン 234
- IV — フーコー 238
- V — おわりに 242

事項索引 243

人名索引 247

執筆者紹介